

まちがいさがし クイズ



上下の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてください。

とうふねこ座：市川雅子 画

応募方法

ハガキまたはファクスに、①答え(右の絵に○をつける)・②住所・③氏名(ふりがな)・④年齢・⑤電話番号・⑥広報紙の感想、ご意見などを書いて応募してください。なお、当選者のお名前を広報がまごおり1月号に掲載しますので、ご了承ください。

送り先

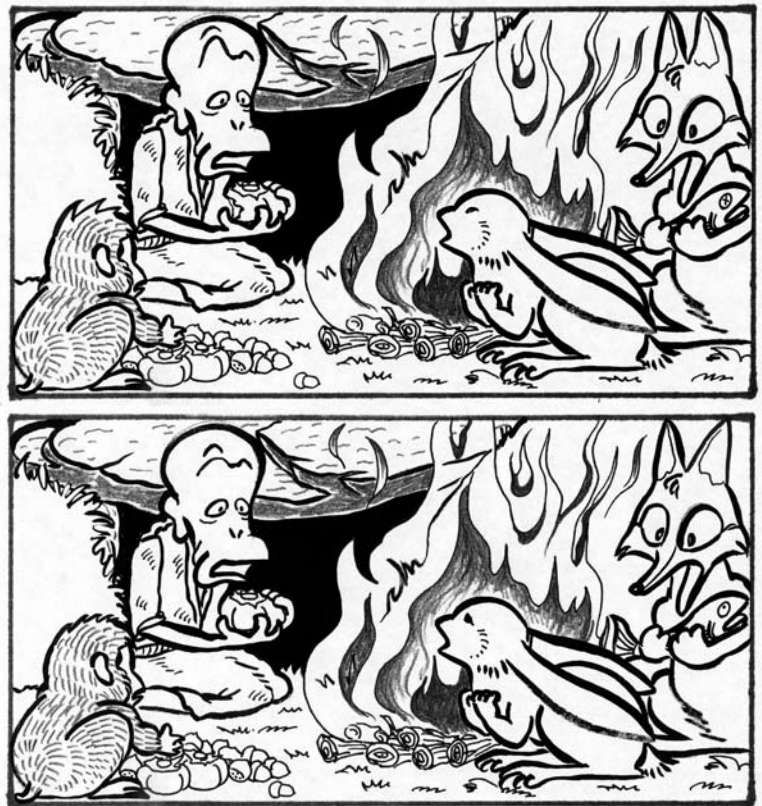
〒443-8601 旭町17番1号
企画広報課「クイズ」係
FAX66♦1190

応募締切

11月18日(金)

プレゼント

全問正解された方のうち、抽選で10人の方にクオカードもしくはラグーナの湯無料利用券をプレゼントします。なお、賞品は1月初旬に郵送します。



「火の穴」(西浦町)

今は昔、元禄の初めごろ、人々は徳川綱吉の悪政に苦しんでいた。そのころ、ちまたに呪師祐天和尚の恐ろしいお告げが流れた。『悪政を憎み、天より火の雨が降るだろう』というお告げだった。人々は恐れおののき、各地に避難場所として石穴(石家)を造った。

ある日、きつね、さる、うさぎの三匹が神岩の辺りで木の葉のように波にもまれる小舟を見つけた。さるが、「きゃきゃ、いいさんが乗ってるぞ! あ、あゝ流されていく!三匹が追いかけていくと明柄の浜に墜せかけたいいさんがうちあがられていた。うさぎがいいさんに触ると小さな声で返事をした。きつねが「石切り場の玄さんが、火の雨が降るって言ってたよ。そうだ原山の石穴なら安全だ。いいさんをそこへ運んでいこう!」

しばらくして、いいさんは目を覚まし、腹が減ったと言った。そこで三匹はそれぞれ食べ物を探しに行き、さるは木の実を、きつねは海で魚を獲ってきたが、うさぎは何も見つけられなかった。きつねが魚を焼くために火をおこし、火が勢いよく燃えてくるとうさぎは「私はいいさんに何もしてあげられなかった。いいさんどうぞ私を食べて元気になるって下さい!」そう言うなり、うさぎは燃えさかる炎の中へ飛び込んだ。その途端いいさんは白く光る神になり、炎の中で焼けるうさぎの体から、魂を引き寄せ抱きしめた。「うさぎ、おまえの清い魂はよく分かった。人間たちがどうしようもない世の中にしてしまったが、おまえの魂に免じて火の雨の呪は消し去ろう」。白い神はうさぎの魂を抱いて石穴へ消えるように入って行った。いつごろから石穴から湧き出でるように螢火がふもとを飛び交うようになった。時折その中にひととき大きな螢火が見られたようだ。

その後、火の雨は降らなくなった。今でも西浦の原山に石穴があり、地元の人たちは火の穴と呼んでいるそうです。



◆9月号の答え

9月号クイズまちがいさがし
(マヤ稲荷)の当選者
応募総数66通
正解者57人
当選者(敬称略・50音順)
中央本町 飯島いつみ
三谷町 岡田真矢
蒲郡町 小川力
形原町 尾崎 誠
金平町 小田任志
大塚町 佐藤フミ子
元町 高須将弘
豊岡町 浜田智香子
中央本町 藤井貴子
松原町 間瀬奈都美
おめでとーございます。賞品は11月初旬に発送します。